



コミュニティ祭り 育英太鼓

浅草橋地区コミュニティ委員会における最大の行事は、毎年11月初めに実施している「コミュニティ祭り」です。例年8月ごろから実行委員長を中心に、委員会で準備を開始しています。祭り当日は、台東育英小学校の生徒たちによる力強い育英太鼓（写真左）をオープニングに、地域の名産を販売する物産展、フリーマーケット、野菜販売を定番に実施しています。さらに、令和元年度は昔懐かし縁日（写真下）を企画し、子供から大人まで大好評でした！

また、地域の大きなイベントである、浅草橋紅白マロニエまつりや、柳橋納涼盆踊り大会、柳北おどりなどのお手伝いも行っています。

当委員会には運動系17サークル、文化系4サークルがあり、台東育英小学校などの施設をお借りして、日ごろからスポーツや音楽などを楽しんでいます。



コミュニティ祭り 昔懐かし縁日

しかし、令和2年春先からの新型コロナウイルス感染症拡大により、学校施設の開放が休止され、各サークルの一連の活動が中止を余儀なくされました。サークルメンバーにとっては、大変シロッキングな出来事です。感染拡大が収束に向かうかと思えば再拡大と、先が見えない状況が続いています。

このコロナ禍で、活動は再開したいが、新型コロナウイルス感染も怖いといった複雑な局面に立たされている方々は大変多いのではないかと思います。

そこで、当委員会において、許容される範囲内で少しずつ運営・活動を再開した具体例をご紹介します。

両サークルとも施設の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとった利用方法に沿って活動し、練習後の飲食は最低限にする、飲み会等はオンラインを活用するなど工夫を凝らして少しずつ活動を再開しています。少しでも皆様の参考となれば幸いです。

●テニスサークルの例

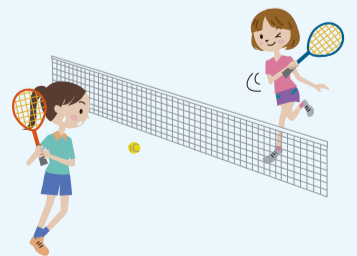
テニスの場合、プレー中よりも、プレー前後の更衣室における着替え、あるいはプレー後の飲食の方が、感染の危険度は高いかもしれません。

また、定期的にテニスコートが確保できるといふコミュニティにおける活動が、いかに恵まれていたのかを、まざまざと痛感するとともに、改めて感謝する次第ですが、コロナ禍の中で使用可能なテニスコートが限られているため、コートを確認することは難しい状況です。幸運にもコート使用の抽選などに当たった際には以下のことに留意しました。

- ・メンバーの数を限定して、多人数とならないように配慮し、1コート6名程度にする。
- ・テニスコート往復時のマスク着用、プレー時は熱中症対策もあり任意。
- ・手指消毒はもちろん、特に靴底の消毒を実施。テニスボールはプレー中バウンドし、プレーヤーはそれを必ず手で持つので、靴底についたウイルスがうつる可能性がある。靴底の消毒は極めて重要。



靴底消毒



●合唱サークルの例

合唱は、いわゆる「三密」や飛沫感染の危険を起す条件を満たす活動です。室内で、大勢が集まり、大きな声で歌うわけですから、コロナ禍では大変危険でしょう。

しかし、そんな中でも、歌いたい、練習をしたいという思いは強く、何とか練習を再開し始めています。

- (1)貸出許容されている公的な施設を利用、感染状況に応じて中止判断もする。
- (2)歌うときも含め、常時マスクを着用。
- (3)練習中は30分に1回程度5〜10分換気。
- (4)練習後は、使用施設、用具のアルコール消毒清掃の徹底。



あきらめない気持ち、熱意があれば、何かしらの方法が見つかるはずですが、委員会のメンバーにとっては大変困難な状況が続いていますが、「夜明けの来ない夜は無い」と信じ、この難局を乗り切りましょう。

齋藤 芳則